



Title	太宰治スタディーズ 第5号 著者紹介
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ. 2014, 5, p. 182-183
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97207
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

著者紹介（五十音順）

井原あや（いはら・あや）

大妻女子大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程単位取得退学。博士（文学）。現在、亜細亜大学、大妻女子大学、相模女子大学、実践女子大学非常勤講師。編著『コレクション都市モダニズム詩誌第23巻　名古屋のモダニズム』（和田博文監修、2012.10、ゆまに書房）、論文「女性週刊誌で「ヒロイン」を語るということ——石垣綾子「近代史の名ヒロイン」を考える」（『大妻国文』2013.3）など。

内海紀子（うつみ・のりこ）

お茶の水女子大学大学院博士後期単位取得退学。日本大学・共立女子短期大学・聖心女子大学非常勤講師。「『桜桃』論——占領下の〈革命〉」（山内祥史編『太宰治研究』第19号、2011.6、和泉書院）、「文案記者（アドライター）・大手拓次」（安中市ふるさと学習館編『薔薇の詩人——大手拓次の生涯——』2007.10）など。

大國眞希（おおくに・まさき）

東京学芸大学連合大学院修了、博士（教育学）。現在、福岡女学院大学教授。人間によって象徴化されたとの観点から文学作品を、絵画や音楽との比較を通じて研究している。近年は特に〈音〉に注目した環境教育と文学教育との横断的研究を推進中。主な論文「水中のミュートとブレス」（『iichiko』2011.10）、「小説に倍音は響くのか、言葉はいかに生成するのか」（『太宰治スタディーズ』2013.6）など。

小澤純（おざわ・じゅん）

1976年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程修了。博士（文学）。現在、慶應義塾志木高等学校教諭、早稲田大学・惠泉女学園大学非常勤講師。論文「『馬来の日記』序——太宰治と櫻岡孝治を再び繋ぐ「戦地」」（『太宰治研究』2013.6）、「『鼻』を《傍観》する——夏目漱石『文学論』を視座にして」（『芥川龍之介研究』2013.9）など。

斎藤理生（さいとう・まさお）

1975年生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。現在、大阪大学大学院文学研究科准教授。著書『太宰治の小説の〈笑い〉』（2013.5、双文社出版）、論文「織田作之助『夫婦善哉』の「形式」——「系譜小説」を手がかりに」（『日本近代文学』2013.11）など。

滝口明祥（たきぐち・あきひろ）

1980年生まれ。学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（日本語日本文学）。学習院大学助教を経て現在、大東文化大学専任講師。著書『井伏鱒二と「ちぐはぐ」な近代』（新曜社）ほか。

長原しのぶ（ながはら・しのぶ）

関西学院大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程修了。博士（文学）。現在、香川高等専門学校准教授。論文「山岸外史『人間キリスト記』の影響と可能性——「葉桜と魔笛」を中心に——」（「太宰治スタディーズ」第4号、2012.6）など。

野口尚志（のぐち・なおし）

1976年生まれ。筑波大学大学院博士課程人文社会科学研究科文芸・言語専攻日本文学領域修了。博士（文学）。現在、専修大学松戸高等学校非常勤講師。論文「太宰治「めくら草紙」論——〈空虚〉な〈私〉とボードレール、象徴主義——」（「稿本近代文学」2012.12）、「太宰治の〈コント〉、あるいはジャンルの攪乱——「盜賊」と東京帝大仏文研究室——」（「太宰治スタディーズ」別冊、2013.6）など。

平浩一（ひら・こういち）

早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程修了。博士（文学）。現在、国士館大学准教授。論文「麗化される独白——太宰治『燈籠』論」（「文学・語学」2013.7）、「直木三十五『南国太平記』試論——石井鶴三挿絵と書簡から浮かび上がるもの」（『時代小説作家と挿絵画家・石井鶴三』展・資料集）2012.10、信州大学附属図書館）ほか。

松本和也（まつもと・かつや）

1974年生まれ。立教大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了、博士（文学）。現在、信州大学准教授。著書『川上弘美を読む』（2013.3、水声社）、論文「白と“書くこと”——多和田葉子『雪の練習生』」（「季刊 現代文学」2014.3）ほか。

吉岡真緒（よしおか・まお）

1972年生まれ。國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期満期退学。現在、國學院大學兼任講師。「太宰治『皮膚と心』論——記号性の消失、無効化される権力」（「太宰治スタディーズ」第4号、2012.6）、「三宅花園『藪の鶯』論——『真成のクリスチャン』という場所」（「國學院雑誌」2013.1）など。

* * * * *

木田隆文（きだ・たかふみ）

龍谷大学大学院文学研究科日本語日本文学専攻博士後期課程修了。博士（文学）。現在、奈良大学文学部准教授。「武田泰淳『中秋節の頃（上）』の周辺——日本統治下上海における邦人文学界の状況」（『日本近代文学』第85輯、2011.11）、『新聞で見る戦時上海の文化総覧——「大陸新報」文芸文化記事細目』（共編、2012.6、ゆまに書房）など。